



中村ミナト、ステップス二年半ぶり二度目の個展である。中村は今回も前回同様、ギャラリー内にはアルミニウムの大作を一点展示したが、事務所ではアルミニウムだけではなく、鉄や、デンマークの空気を素材とした小品も 11 点展示した。中村は作品に色をつけることを好む、とギャラリーオーナー吉岡に教えて貰った。

確かに小品にはアルミニウムの切り口だけではなく、面にも青、緑などの着色が施されている。大型作品《catch the light》にも、繋ぎ目の箇所が黄色くなっている。この色が必要かどうかという議論はここでは行わない。

今回の中村作品で重要なのは、危ういバランスである。アルミニウムといえども、相当の重量がある。四角の《catch the light》の一片は浮いている。二枚のアルミニウムを組み合わせた前回の《fold》以上にマッサと存在感があり、内と外という、彫刻のような空間性が強調されている。しかしこの作品は、彫刻ではない。

中村の作品は、重量よりもバランスだと思う。バランスが空間性を生むのであるが、異なるベクトルから論考すれば、重量のバランスよりも裏と表という存在価値が失われていくことに、中村の作品の意義があるのではないか。

